

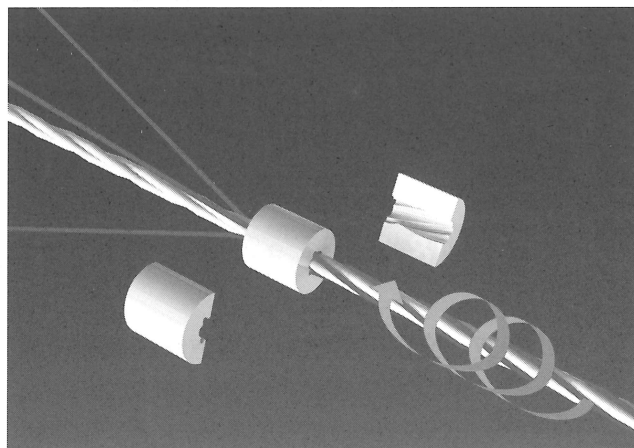
## 理研興業(株)

小樽市

『ガードケーブル・ワイヤーロープ用視線誘導標』を開発・販売

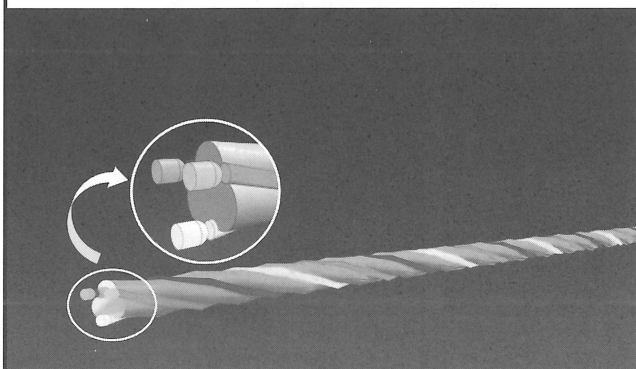
国内有数の防風柵・防雪柵メーカーとして知られる理研興業(株)〔本社：小樽市／柴尾耕三社長〕は、このたび長年にわたり培ってきた防風柵・防雪柵開発の技術を生かし、高速道路や高規格道路にみられる暫定2車線区間の中央分離帯ワイヤーロープ式防護柵で使用可能な、『ガードケーブル・ワイヤーロープ用視線誘導標』を開発・発表し、販売を開始した。

高規格道路等の暫定2車線区間では、これまでセンターライン部にラバーポール等を設置していたが、車両の飛び出しによる事故の重大化が大きな課題となっていた。そこで近年、センターライン部に飛び出し防止用のワイヤーロープ式防護柵の設置が検討され、試験施工区間においては飛び出し事故が激減するなど一定の成果を見せていたが、一方で接触事故が増加するなどの新たな課題が生まれていた。同社ではこの流れに先んじてガードケーブル・ワイヤーロープ等に視線誘導用の発光体を組み込むことを検討し、開発していた。



理研スピンドル

『ガードケーブル・ワイヤーロープ用視線誘導標』は、同社が防風柵・防雪柵用に製品化していた、柵に沿って線上に発光体を組み込むことで、厳冬期の暴風雪時にもドライバーが道路と自分の位置を確実に認識できるようにした技術から着想を得たもの。具体的にはLEDによって線全体が発光する導光樹脂線を、同社が開発した『理研スピンドル』を用いて防護柵のガードケーブル・ワイヤーロープ部分の溝に現場で簡易に巻き付けることで、レーザービームのように認識しやすい線状の視線誘導を実現している。ガードケーブル・ワイヤーロープへの接触事故を抑制できるほか、夜間はもちろん大雨や大雪など、厳しい気象条件の際にもドライバーの視線誘導、安全確保に寄与するものとなっている。



ガードケーブル・ワイヤーロープ用視線誘導標 (図解)

同社では平成30年6月に同製品を発表したが、国土交通省や各高速道路会社が暫定2車線区間における中央分離帯としてワイヤーロープ式防護柵を設置する方針を決めたことから、すでに多数の問い合わせが寄せられており、大きな反響を呼んでいる。

尚、同社では本製品を含む技術を国際特許出願しており、現時点で日本国の特許を取得した。今後は海外での需要が多いことから、他国への国内移行を実施する計画である。



設置例

### 企業profile

#### ★ 主力業種 防風柵・防雪柵の開発製造 ★

〒047-0261 北海道小樽市銭函3丁目263番地7  
TEL : 0134-62-0033 FAX : 0134-62-0088

- 代表取締役：柴尾耕三
- 設立：昭和30年11月11日
- TSRコード：01-011011-9
- U R L : <http://www.riken-kogyo.co.jp/>

